

環境側面に関する情報

※ 環境パフォーマンスデータの対象組織は、原則的に連結財務諸表の範囲で、環境負荷の大きさを基準に設定しています。ただし、一部の販売及び生産(組み立て)子会社は含まれていません。特に表記のないものは、上記の集計範囲で行っています。なお、「グループ合計」の値は、それを構成する各小計の合算値と必ずしも一致していない場合があります。

地球温暖化対策

CO₂排出量[※]の推移

(単位:千t-CO₂/年)

	2005年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
日本・生産	1,084	884	937	918	903	894	886
日本・非生産	28	29	28	24	25	31	28
海外・生産	345	291	342	367	384	352	349
海外・非生産	30	30	28	29	26	42	42
グループ合計	1,487	1,233	1,335	1,338	1,338	1,318	1,305

※ 算定方法:省エネ法に準拠し、エネルギー使用によるCO₂排出量を算出。買電については各電力会社の排出係数を使用

2014年度の地域別CO₂排出量[※](製造)

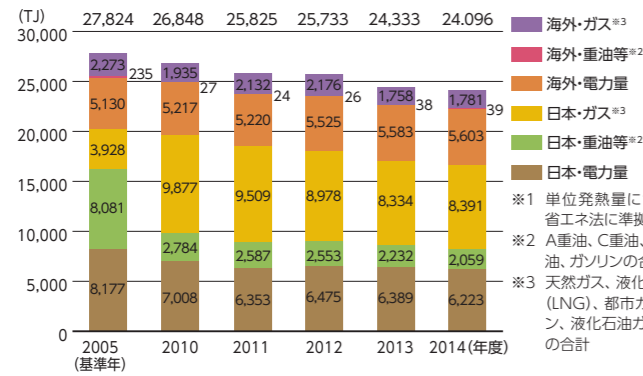
(単位:千t-CO₂/年)

	CO ₂ 排出量
日本	914
米州(アメリカ、カナダ、ブラジル)	157
欧州(オランダ、ドイツ、ベルギー、イギリス、フランス)	90
海外	112
中国	112
中国を除くアジア・オセアニア(オーストラリア、韓国、シンガポールなど)	33
グループ合計	1,305

※ 算定方法:省エネ法に準拠し、エネルギー使用によるCO₂排出量を算出。買電については各電力会社の排出係数を使用

省エネルギー対策

エネルギー使用量^{※1}の推移



2014年度の重油等使用量[※]の内訳

(単位:千kl)

	重油	灯油	軽油	ガソリン
日本	48.4	1.5	0.1	0.0
海外	0.0	0.0	0.8	0.3
グループ合計	48.4	1.5	0.9	0.3

※製造における使用のみ

物流における環境配慮

国内輸送におけるCO₂総排出量[※]の推移

(単位:t-CO₂/年)

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
CO ₂ 総排出量	40,936	41,450	44,278	47,075	45,633

※ このCO₂総排出量は、富士フィルムロジスティクスが関わった富士フィルムグループ各社分をすべて含めて算出。また、2006年度より改正省エネ法による把握方法に切り替え(空車の走行部分は含まないなど)

国内輸送量[※]の推移

(単位:百万t-km)

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
輸送量	164	175	194	186	181

※ 輸送量の算定範囲は、改正省エネ法報告に従った所有権範囲と同一

輸送効率改善によるCO₂削減量と削減率[※](国内物流)

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
CO ₂ 排出削減量(t-CO ₂ /年)	7,004.0	6,969.9	7,753.6	6,353.7	11,403.5
CO ₂ 削減率(%)	14.8	14.4	14.9	11.9	20.0

$$\text{CO}_2\text{削減率}(\%) = \frac{\text{CO}_2\text{削減量}}{\text{CO}_2\text{総排出量} + \text{CO}_2\text{削減量}}$$

※ 2014年度も特定荷主と連携してCO₂削減活動を推進。効果的な施策としては、今年度(2014年度)より新たに実施したモーダルシフト(陸送輸送→海上輸送)に加え、物流拠点の見直しに伴う輸送距離の短縮及び2段階積みによる積載効率の向上、エコドライブによる燃費向上などがあげられる。削減量は事業所ごとに実施しているCO₂削減施策の積み上げ値より算出

輸出用包装資材の重量削減率[※](累計)

(単位:%)

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
包装資材削減率	5.7	3.4	10.1	15.5	9.3

$$\text{包装資材削減率}(\%) = \frac{\text{削減重量}}{\text{総資材重量} + \text{削減重量}}$$

※ 2014年度に富士フィルムロジスティクスが取り扱った輸出用包装資材の総重量は1,348,502.0トン。削減重量138,294.2トン、年間の削減率は9.3%

容器包装材料[※]使用量の推移(富士フィルム単独)

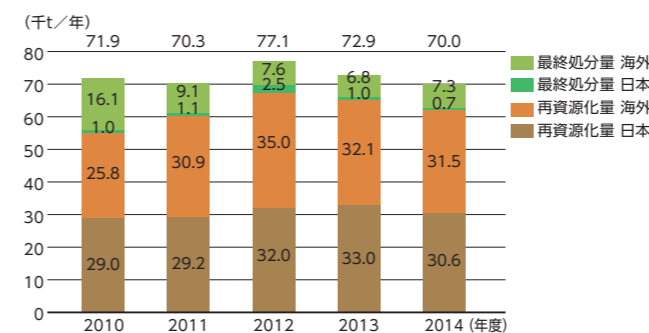
(単位:千t/年)

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
総使用量	19.0	18.5	18.2	16.3	15.5

※ ダンボール、紙材、紙器、金属材料、プラスチック成形品、プラスチックフィルム・シート、ガラスの合計

省資源対策

廃棄物発生量^{※1}、再資源化量及び最終処分量^{※2}の推移



※1 廃棄物処理外部委託量

※2 単純焼却または単純埋立てした量

有価物量[※]の推移

(単位:千t/年)

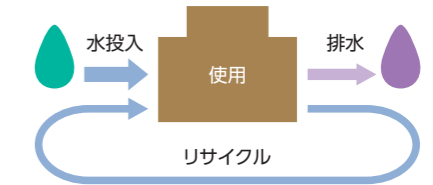
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
日本	56.8	54.6	37.8	33.6	33.6
海外	21.2	21.3	28.4	27.2	30.1
グループ合計	78.0	75.9	66.1	60.9	63.7

※第三者に有償で販売した量

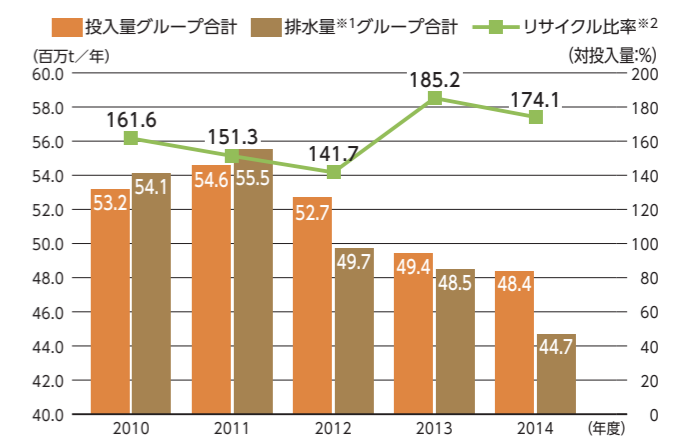
廃棄物の主なリサイクル方法

廃棄物	リサイクル例
プラスチック(分別品)	パレット、配管、衣服、断熱材
プラスチック(混合品)、フィルター	高炉原料
磁気テープ	高炉原料、畳床材、断熱材
水酸化アルミ	硫酸バンド(水処理用凝集剤)
無機汚泥、研磨剤	セメント、路盤材、建築用資材
有機溶剤	塗料用シンナー
酸・アルカリ	中和剤
可燃性廃棄物(混合物)	固形燃料、発電・温水製造
蛍光灯	ガラスウール
電池	亜鉛、鉄精錬
残飯、生ゴミ、有機汚泥	肥料、飼料
紙類(文書、空き箱など)	再生紙
鉄、アルミ、銅など	金属精錬

富士フィルムグループの水使用の仕組み

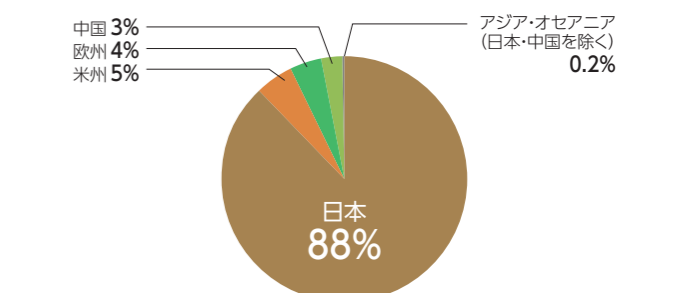


水の投入量、リサイクル量及び排水量の推移



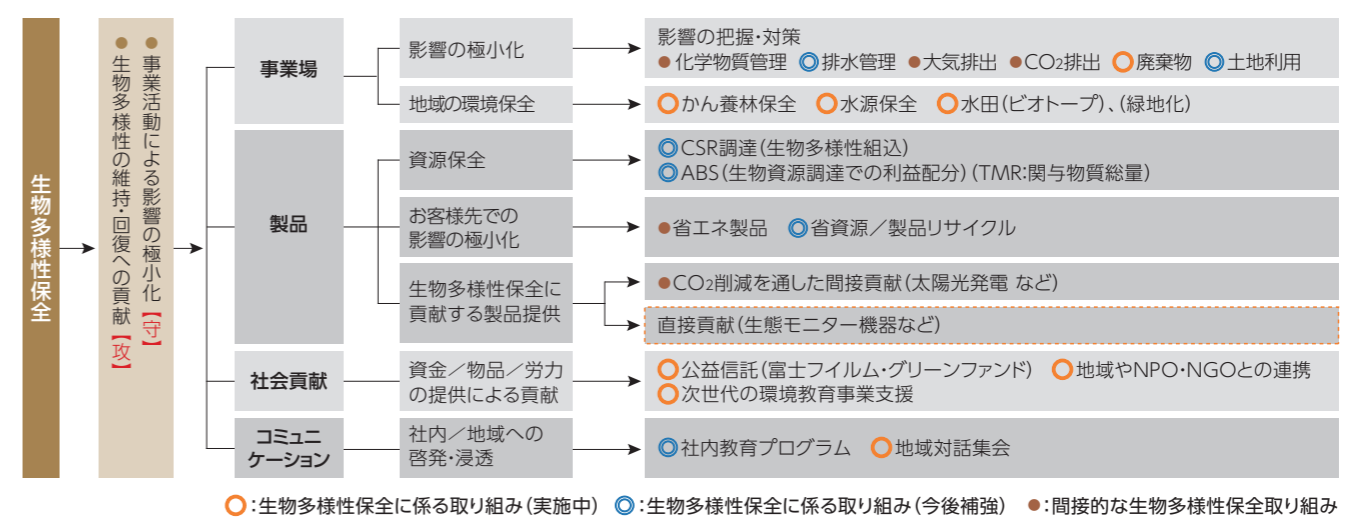
※1 事業活動で使用した水、雨水、その他含む ※2 冷却水の使用も含めたリサイクル比率

2014年度 水の投入量の地域別割合(使用量)



生物多様性への取り組み

生物多様性保全への取り組み(全体像)



○:生物多様性保全に係る取り組み(実施中) ●:生物多様性保全に係る取り組み(今後補強) ●:間接的な生物多様性保全取り組み